

## 平成3年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
やや不良	良	良	不良	平年並	良

### I. 気象概況

平成2年9月から平成3年10月までの概況は次のとおりである。

平成2年9月：

平均気温は上旬が高かったほかは平年並、降水量は上旬がやや少なかったが中・下旬は多かった。日照時間は上旬がやや多く、中旬がやや少なく、月平均では平年並であった。

10月：

平均気温は上旬がやや高く、中・下旬は高かった。降水量は少なめで、日照時間はやや多かった。

11月：

平均気温は高く、特に下旬は平年を5.2℃上回った。降水量は下旬が少なかったほかは平年並、日照時間も平年並であった。11月5日に平年より6日遅い降雪始を記録した。

12月：

平均気温は前月に引き続いて高く、上旬には6.5℃、下旬には4.1℃も平年を上回った。降水量は並からやや少なく、日照時間は中旬がやや多かったほかは平年並であった。

平成3年1月：

平均気温は高く、中旬が4.7℃、下旬が5.1℃平年を上回った。降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

2月：

平均気温は上旬が高かったほかは平年並、降水量は中旬が多かったほかは平年並、日照時間は平年並であった。

3月：

平均気温は上旬がやや高く中旬がやや低かった。降水量は上旬が多く下旬がやや少なく、日照時間は平年並であった。

4月：

平均気温は上・中旬がやや高く、降水量はほぼ平年並、日照時間も平年並であった。

5月：

平均気温は中・下旬が高く、降水量は中旬が多かったが、上旬および下旬はやや少～少なかった。日照時間は平年並であった。

6月：

平均気温は各旬ともに高く、降水量は中・下旬がやや少なく、日照時間は平年並であった。

7月：

平均気温は上旬がやや高かったほかは平年並、降水量は上旬が少なく下旬が多かった。日照時間は上・中旬が平年並、下旬が少なかった。

8月：

平均気温は上旬と下旬が低く、降水量は上・中旬がやや少であったが下旬に95.5mmを記録して平年をやや上回った。日照時間は下旬がやや多かったほかは平年並。

9月：

平均気温はほぼ平年並、降水量は上・中旬がやや少なく下旬はやや多かった。日照時間は上旬がやや多かったほかは平年並。

10月：

平均気温は上・中旬が高く、降水量は上旬が少なく下旬がやや少、日照時間は平年並であった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、積算平均気温は3186℃で平年(3040℃)より146℃高かった。降水量は495mmで平年(629mm)より134mm少なく、特に5月下旬～7月上旬の合計は30.5mmで平年の31%弱であった。日照時間は1309時間で平年(1391時間)より82時間少なかったが、6月を中心に日照計の測定値が異常であったことを付記する。

### 季節表

年次	根雪始 (2年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12.8	4.2	116	4.1	4.16	4.28	11.1	187	11.5
平年	12.3	4.6	125	4.17	4.25	5.1	10.15	164	10.3
比較	5	△4	△9	△16	△9	△3	17	23	6

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	3,186	4,262	2,101	495	1,309
	平年	3,040	4,108	1,959	629	1,391
	比較	146	154	142	△134	△82
5～ 9月	本年	2,652	3,423	1,874	363	963
	平年	2,575	3,317	1,827	470	1,013
	比較	77	106	47	△107	△50

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

## II. 平成3年度の作況

### 1. 秋播小麦 平成3年度の作況: やや不良

事由: 播種は平年より8日早い9月7日である。越冬前は気温が高く、降水量も適度であったので、生育はやや過繁茂ながらも順調であった。また、積雪期間が短く、雪腐病の被害は少なかった。融雪後は、概して高温・干ばつ傾向に推移したので、生育は順調に進み、出穂期、成熟期ともに平年より1週間程度早まった。供試2品種とも穂数は確保できたが、穂長が短かったので、子実重は「ホロシリコムギ」が495kg/10a、および「タクネコムギ」が457kg/10aで、その平年対比は各々95%および102%となった。収穫物の品質は平年より優った。

以上、基幹品種の「ホロシリコムギ」がやや低収であったことをふまえ、平成3年度の作況はやや不良といえる。

品種名 項目/年次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(平2.月.日)	9.7	9.15	△8	9.7	9.15	△8	
出芽期(平2.月.日)	9.15	9.23	△8	9.15	9.23	△8	
出穂期(月.日)	6.4	6.10	△6	5.26	6.3	△8	
成熟期(月.日)	7.13	7.22	△9	7.8	7.15	△7	
草丈 (cm)	平2.10月20日	28	18	10	28	17	10
	5月20日	55	44	11	57	43	14
	6月20日	104	100	4	102	100	2
茎数 (本/㎡)	5月20日	994	1073	△79	1148	1054	94
	6月20日	639	581	58	777	677	100
成熟期に おける	稈長(cm)	91	93	△2	89	88	1
	穂長(cm)	7.8	9.0	△1.2	7.2	7.8	△0.6
	穂数(本/㎡)	567	526	41	741	622	119
子実重(kg/10a)	495	523	△28	457	450	7	
リットル重(g)	707	775	△68	802	796	6	
千粒重(g)	46.4	44.6	1.8	38.4	40.8	△2.4	
品質(等級)	1	2上	—	1	2上	—	
子実重平年対比(%)	95	100	△5	102	100	2	

注) 平年値は前7か年中、昭和61年、平成元年(各収穫年度)を除く5か年平均。

## 2. 大豆 平成3年度の作況:良

事由:播種期は5月15日で、平年より4日早かった。播種後気温は高めに推移したので、出芽期は平年より10日以上早くなったが、干ばつ傾向となったので出芽が不揃いであった。出芽後6月上旬には降雨に恵まれ6月上旬から7月上旬にかけて気温が高めに推移したので生育ステージは著しく進み、開花期は平年より「ユウヒメ」で2週間、「ユウヅル」は1週間早まった。開花後の生育は抑制気味となったが、9月には気温は平年並に推移し、下旬には降雨にも恵まれたので生育は比較的順調で、着莢および登熟は順調に進み、「ユウヒメ」は平年より5日早く「ユウヅル」は平年より6日早く、各々成熟期に達した。成熟期における調査結果では、主茎長は平年より著しく短く、主茎節数も平年より少ないが、分枝数は平年をやや上回った。子実収量は、「ユウヒメ」が369kg/10aおよび「ユウヅル」が377kg/10aで、平年対比は各々115%および130%の多収となった。収量構成要素についてみると、一莢内粒数がやや平年より少なかったが着莢数が多く百粒重も重かった。なお、品質(等級)は「ユウヒメ」は平年より優ったが「ユウヅル」は平年並であった。以上により、平成3年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	ユウヒメ			ユウヅル			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.15	5.19	△4	5.15	5.19	△4	
出芽期(月.日)	5.30	6.11	△12	5.30	6.1	△11	
開花期(月.日)	7.12	7.29	△14	7.25	7.31	△6	
成熟期(月.日)	10.1	10.6	△5	10.1	10.16	△6	
主茎長 (cm)	6月20日	11.5	7.6	3.9	12.0	6.2	5.8
	7月20日	37.4	31.2	6.2	30.0	28.0	2.0
	8月20日	38.8	57.8	△19.0	55.8	70.6	△14.8
	9月20日	40.2	57.9	△17.7	51.4	70.7	△19.3
	成熟期	40.2	58.0	△17.8	48.5	70.0	△21.5
主茎節数 (節)	6月20日	2.1	0.4	1.7	2.1	0.4	1.7
	7月20日	8.4	6.1	2.3	7.3	6.0	1.3
	8月20日	11.2	13.4	△2.2	14.5	15.7	△1.2
	9月20日	12.2	13.4	△1.2	14.6	15.7	△1.1
	成熟期	11.7	13.2	△1.5	13.6	15.0	△1.4
分枝数 (本/株)	7月20日	5.7	2.9	2.8	3.3	1.8	1.5
	8月20日	6.1	7.2	△1.1	6.5	5.7	0.8
	9月20日	5.9	6.8	△0.9	5.7	5.4	0.3
	成熟期	6.8	6.6	0.2	5.8	5.1	0.7
着莢数 (莢/株)	9月20日	71.9	66.0	5.9	79.9	61.7	18.2
	成熟期	64.8	62.2	2.6	73.2	58.9	14.3
一莢内粒数(粒)	1.91	2.00	△0.09	1.67	1.85	△0.18	
子実重(kg/10a)	369	321	48	377	290	87	
百粒重(g)	43.8	41.2	2.6	46.6	40.6	6.0	
虫喰率(%)	0.4	0.4	0.0	0.3	0.7	△0.4	
品質(等級)	2	3	—	3	3上	—	
子実重平年対比(%)	115	100	15	130	100	30	

注)平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数。

### 3. 小豆 平成3年度の作況:良

事由:播種期は平年より3日遅い5月21日であったが、適度な土壌水分と高温に恵まれ、出芽は良好で出芽期は平年より6日早かった。初期生育は良好であり、その後も順調な生育で、開花期は平年より6日早い7月21日となった。6月中旬から続いていた干ばつ傾向も7月下旬の雨で解消され、開花期以降の生育は旺盛で、主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数とも平年を上回った。登熟も比較的順調に進み、成熟期は平年より5日早い9月1日となった。着莢数、粒大、一莢内粒数がともに平年を上回り子実重は334kg/10aで平年対比142%の多収となった。なお、子実の品質(等級)は平年並である。

以上により、平成3年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	エリモシヨウズ			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.21	5.18	3	
出芽期(月.日)	6.3	6.9	△6	
開花期(月.日)	7.20	7.26	△6	
成熟期(月.日)	9.1	9.6	△5	
主茎長 (cm)	6月20日	5.5	3.6	1.9
	7月20日	20.8	14.6	6.2
	8月20日	44.2	43.4	0.8
	成熟期	46.0	44.6	1.4
主茎節数 (節)	6月20日	1.1	1.1	0.0
	7月20日	7.3	5.9	1.4
	8月20日	12.1	12.1	0.0
	成熟期	12.0	11.9	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	3.1	1.5	1.6
	8月20日	2.2	3.0	△0.8
	成熟期	2.8	2.5	0.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	37.9	33.4	4.0
	成熟期	50.1	39.4	10.7
一莢内粒数(粒)	6.98	6.30	0.68	
子実重(kg/10a)	334	235	99	
百粒重(g)	12.3	12.0	0.3	
屑粒率(%)	1.0	2.1	△1.1	
品質(等級)	2上	2上	—	
子実重平年対比(%)	142	100	42	

注)平年値は前7か年中、昭和63年、平成元年を除く5か年平均。6月および7月の主茎節数は本葉数。

#### 4. 菜豆 平成3年度の作況:不良

事由:播種は平年より1日早かった。その後圃場は干ばつ気味となったので、出芽が遅れ出芽期は平年に比べ3日遅れた。6月下旬以降も圃場は干ばつ傾向に推移したので、茎の伸長は抑制されたが、開花始は平年より9日早まった。干ばつ状態は7月中旬まで続き、そのため着莢数が平年をやや下回ることになり、また8月下旬からは低温、多雨により登熟が遅れ、成熟期は平年より4日遅い9月6日となり、粒の肥大も劣った。この結果、子実重は218kg/10aで平年対比83%となった。減収の要因は着莢数の減少と百粒重が軽いままに終わったことによる。なお子実の品質(等級)は平年より優った。

以上により、平成3年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		改良早生大福		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.22	5.23	△1
出芽期(月.日)		6.14	6.11	3
開花期(月.日)		7.5	7.14	△9
成熟期(月.日)		9.6	9.2	4
主茎長 (cm)	6月20日	14.3	14.7	△0.4
	7月20日	216	233	△17
	8月20日	271	286	△15
	成熟期	272	282	△10
主茎節数 (節)	7月20日	16.5	17.4	△0.9
	8月20日	22.4	22.0	0.4
	成熟期	21.7	22.4	△0.7
分枝数 (本/株)	7月20日	1.7	4.4	△2.7
	8月20日	2.3	3.6	△1.3
	成熟期	1.9	3.2	△1.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	32.7	34.4	△1.7
	成熟期	33.2	36.1	△2.9
一莢内粒数(粒)		4.36	4.33	0.03
子実重(kg/10a)		218	263	△45
百粒重(g)		63.1	64.6	△1.5
屑粒率(%)		3.6	5.1	△1.5
品質(等級)		2	3	—
子実重平年対比(%)		83	100	△17

注) 平年値は前7か年中、昭和60年、61年を除く5か年平均。

## 5. ばれいしょ 平成3年度の作況: 平年並

事由: 植付けは平年より2日遅い5月7日に行った。植付後、高温に経過したので萌芽が早く、初期生育は順調であった。その後、6月の高温、少雨により茎の伸長は著しく抑制されたが、開花始は平年より5日早まった。7月下旬に多雨があり干ばつ傾向は解消されたが、8月中旬以降は多照に経過して疫病の発生が少なく茎葉の黄変、枯凋は順調に進んだ。枯凋期は、早生種の「男爵薯」がほぼ平年並、「農林1号」が9月9日で平年より13日早かった。上いも重は、「男爵薯」で3441kg/10aで平年の103%となったが、枯凋の早まった「農林1号」で4304kg/10aで平年の95%となった。でん粉価はほぼ平年並に達したといえる。

以上により、平成3年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	男爵薯			農林1号			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	5.7	5.5	2	5.7	5.5	2	
萌芽期(月.日)	5.26	5.31	△5	5.26	5.30	△4	
開花始(月.日)	6.22	6.27	△5	6.22	6.27	△5	
枯凋期(月.日)	8.27	8.28	△1	9.9	9.22	△13	
茎長 (cm)	6月20日	36	24	12	32	26	6
	7月20日	40	43	△3	48	62	△14
	8月20日	41	46	△5	50	72	△22
茎数 (本/株)	6月20日	5.0	4.7	0.3	4.7	5.5	△0.8
	7月20日	4.9	4.8	0.1	4.9	5.5	△0.6
	8月20日	4.9	4.6	0.3	4.9	5.5	△0.6
上いも重(kg/10a)	3,441	3,336	105	4,304	4,522	△218	
でん粉価(%)	14.2	14.2	0.0	15.8	15.0	0.8	
上いも重平年対比(%)	103	100	3	95	100	△5	
でん粉価平年対比(%)	100	100	0	105	100	5	

注) 平年値は前7か年中、昭和61年、平成元年を除く5か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

## 6. てんさい 平成3年度の作況:良

事由:播種期は平年より1日早い4月4日、移植期は平年より1日遅い5月8日であった。移植後の活着は比較的良好であり、その後7月中旬までの高温により、生育初期の草丈、葉数は平年を大きく上回り、また根部の肥大も良好で根周は平年を大きく上回った。7月下旬から8月下旬にかけての低温と9月下旬の多雨により一時停滞したが、その後は順調な生育に経過した。その結果、10aあたり根重は10.43tで平年対比133%の多収となった。また、根中糖分も17.03%で平年を3%上回った。糖量は10aあたり1776kgで平年対比136%となった。

以上により、平成3年度の作況は良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノヒカリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.4	4.5	△1
移植期(月.日)		5.8	5.7	1
収穫期(月.日)		10.15	10.15	0
草丈 (cm)	5月20日	6.9	4.5	2.4
	6月20日	38.6	26.1	12.5
	7月20日	51.9	52.4	△0.5
	8月20日	62.0	58.5	3.5
	9月20日	60.8	59.1	1.7
	収穫期	57.9	59.2	△1.3
葉数 (枚)	5月20日	3.6	2.8	0.8
	6月20日	12.3	10.1	2.2
	7月20日	20.6	20.5	0.1
	8月20日	27.7	26.2	1.5
	9月20日	27.4	28.9	△1.5
	収穫期	26.6	27.5	△0.9
根周 (cm)	7月20日	26.7	22.7	4.0
	8月20日	34.6	31.5	3.1
	9月20日	38.3	36.4	1.9
	収穫期	39.5	38.5	1.0
茎葉重(t/10a)		5.09	5.38	△0.29
根重(t/10a)		10.43	7.87	2.56
根中糖分(%)		17.03	16.6	0.53
糖量(t/10a)		1,776	1,306	470
根重平年対比(%)		133	100	33
根中糖分平年対比(%)		103	100	3
糖量平年対比(%)		136	100	36

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、平成元年を除く5か年平均。